



つばめ 1号



はじめに

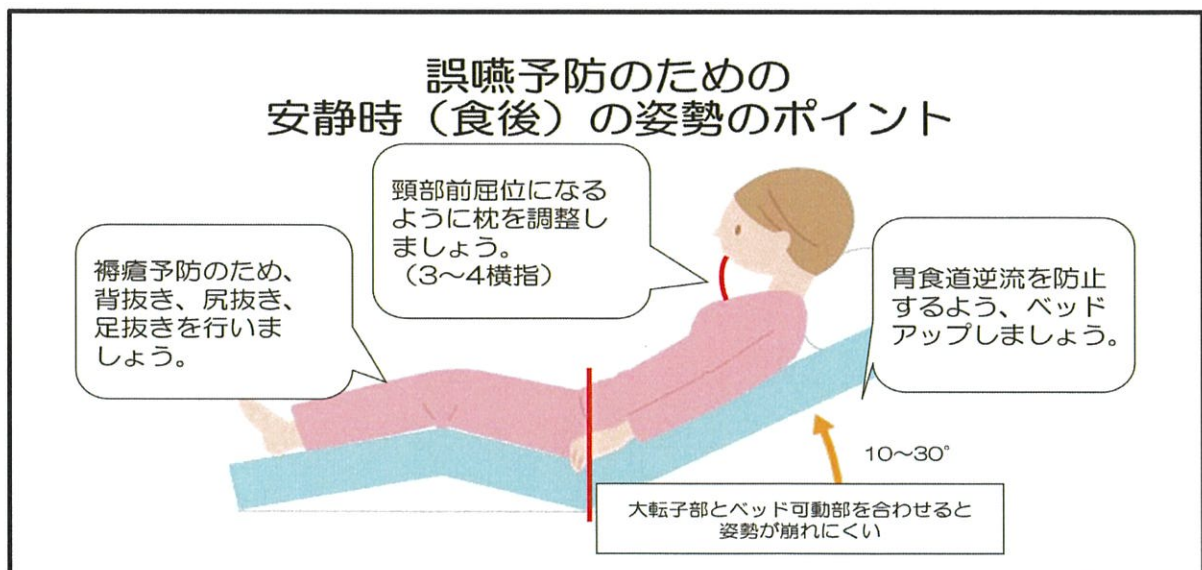
宮古地域の皆様と摂食嚥下について情報共有できるよう、摂食嚥下だより「つばめ」を発行いたしました。「つばめ」は、swallowに由来し、動詞で「飲み込む」、名詞で「つばめ:燕」を意味します。令和6年度も、宮古地域の皆様とともに多くの方が安全に口からおいしく食べられるよう活動してまいります。よろしくお願いいたします。



食べる、飲みこみの困りごとに対応します

摂食嚥下障害とは、食事を飲みこむ一連の動作に障害が起きている状態です。早期から気づいて、対策やリハビリ・ケアを行うことが重要です。以下のようなことなどがありましたら、当院地域連携室(0193-62-4011)へご相談ください。

むせる	飲みこみづらい	のどがごろごろする
痰が出る	肺炎で入院	食事に30分以上かかる
咳こむ		
のどに	 <p>早食い かきこみ すすり食べ かまずに飲みこむ (窒息リスク)</p>	食べ物が口から
食事量が減った		口腔内汚染や トラブルがある
体重が減った		





つばめ 2号



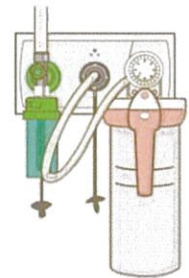
食べるために適した環境をつくりましょう

摂食嚥下障害の患者さんには食事を始める前から環境を整えることが安全においしく食べるにつながります。

口腔ケアをしましょう

手・顔を清潔にしましょう

吸引器、パルスオキシメータなど誤嚥・窒息予防と早期対処の準備をしましょう



トイレ誘導、おむつ交換を済ませましょう

余分な情報を遮断しましょう
患者に応じて、カーテンを引いたり、テレビやラジオを消して静かに食事に集中できるようにする

食事を意識してもらう
食事を患者さんの正面に置く
おしながきを説明する



食事介助前の情報収集と観察をしましょう

食事介助前は実施依頼があった場合でも、自らカルテからの情報収集を行い、全身状態の変化がないか確認しましょう。食事開始前には、発熱がないか、呼吸状態の変化がないか、覚醒しているか、観察し食事開始のアセスメントを行いましょう。

